

## 令和 5 年度普及指導活動外部評価「講評」

- ・新規就農者・企業の確保育成に、大阪産（もん）スタートアカデミーの取組が一つの核になっている。多くの人が申込んでおり、入口の取組として一定の成果があると感じた。  
この先は委員の意見を参考によりよくしていき、まいた種を大事にしていきたい。
- ・就農希望者の思いは一人一人違う。様々な人が農業に飛び込んでくる。利益を最大化したいという人だけではない。  
農福連携をしたい、食育をしたいなどニーズはいろいろ。カウンセリングのように普及組織が個々に対応するのは無理がある。就農希望者個々のニーズから共通性をあぶり出し、事務所を越えて情報交換をし、府としてノウハウをマニュアル化するなどにより、対応してもらいたい。
- ・定量的な数値目標は当然必要だが、数字で図ることができない目標も持ち、意識して普及指導にあたってほしい。
- ・外部評価は点数をつけられる場としてイメージしていると思うが、苦勞した、問題があったなどリアルな話をもっとあるはず。  
普及の仕事は、「なんでだろう」という疑問から、仮説を立て、謎を解き明かすところがよいところ。今後は現実の課題をもっと意識し、率直な意見のやり取りが行われることを期待する。